

カルメル

霊性センターニュース



2026年2月

427号

目次

目次	1
四旬節講和のお知らせ	2
心の泉	4
カルメル会の企画案内	24
東京	25
京都	27
名古屋	29
諸所の企画案内	30
通信深読お申込みのご案内	34
霊性センターニュース郵送終了のお知らせ	35
あとがき	36

2026年 カルメル会四旬節講話シリーズ

十字架の聖ヨハネの列聖 300 周年、及び博士号 100 周年記念

「21世紀における十字架の聖ヨハネ」

第 1 回 2 月 2 2 日（四旬節第 1 主日）

「十字架の聖ヨハネへのまなざし——教会博士宣言 100 周年にあたって」
鶴岡賀雄（東京大学名誉教授）

第 2 回 3 月 1 日（四旬節第 2 主日）

『十字架の聖ヨハネにおける“美の道”についての考察』
松田浩一神父

第 3 回 3 月 8 日（四旬節第 3 主日）

十字架の聖ヨハネ：愛と「^{よろこび}歓喜」の詩人
一幼きイエスのマリー=ユージェヌ神父と共に一
片山はるひ（上智大学教授：ノートルダム・ド・ヴィ会員）

第 4 回 3 月 1 5 日（四旬節第 4 主日）

21 世紀・霊性の時代の十字架の聖ヨハネ 中川博道神父

第 5 回 3 月 2 2 日（四旬節第 5 主日）

まことの幸い——十字架の聖ヨハネの説く愛と信仰の道——
九里彰神父

- ・会場：カルメル修道会 上野毛修道院 聖堂
- ・開始時間：14：00 講話後 当日のミサがあります。
- ・後日オンラインでもご視聴いただけますアクセスコード URL
：<https://www.youtube.com/channel/UCUG7JhdLCoCF-tZ6uei5YpA>

主催：カルメル修道会



心の泉



宇治カルメル会修道院
黙想の家とヤヌア・チェリ



第四巻 聖体拝領への信心の勧めはここにはじまる

第十五章 敬虔の恵みは、謙遜と放棄によって得ることができる

1 主

《あなたは敬虔の恵みを、絶えることなく探し求め、渴望をもって願い、忍耐と信頼とをもって待ち望み、感謝の念をもって受け、謙遜にそれを保ち、熱心に協力すべきである。あなたが渴望する天からの訪れの時と方法については、それが実現するまで神のみ旨に任せなければならない。

あなたが、心のなかで敬虔の不足、または熱心さをまったく感じない時には、へりくだらなければならない。ただ失望したり、あまりに悲しんだりしてはならない。なぜなら神は、長い間、拒絶しながら、一瞬でお与えになることがあるからである。時には、祈りのはじめに拒まれたものを、その祈りの最後に与えてくださることもある。

2 さまたげを取り除いてください。

敬虔の恵みが、いつもすぐ与えられ、望みの時に下るならば、弱い人間は、その恵みが重すぎて耐えきれないであろう。ゆえに、固い希望と、敬虔な忍耐をもって、恵みの時を待たなければならない。また、それが与えられなかったり、ひそかに奪われることがあるなら、それは自分の責任と罪のためであると思いなさい。時には神の恵みをさまたげ、あるいは隠すものが、ささいなことである場合がある。しかし、これほどの恵みをさまたげるものは、果たしてささいなものと言えるのであろうか。しかしあなたが、大小にかかわらず、そのさまたげを取り除いてそれに打ち勝つなら、あなたは望みのものを受けよう。

3 祝福を受ける者

全心をあげて、自分自身を神に捧げ、自分の好みやわがままによって、さまざまなことを探さず、自分のすべてを神にゆだねれば、あなたは心の平和を見いだすであろう。あなたはもう、神のみ旨以外の何をも喜びとしないからである。だから、単純な心で自分の意向を神に向け、過度の愛着や、世俗的なわずらいを脱ぎ捨てれば、敬虔の恵みを受けるにふさわしい者となるであろう。主は、世俗のものを脱ぎ捨てた心に祝福をくださる。人はこの世のことを完全に捨てれば捨てるほど、また、自分自身を軽蔑し、自分に死ねば死ぬほど、すみやかに豊かな恵みを受け、高く自由に上がるようになる。



どこにお隠れになったのですか？
愛するかたよ、わたしをとり残して、嘆くにまかせて…
わたしを傷つけておいて、鹿のように、
あなたは逃げてしまわれました。
叫びわたしはあなたを追って出てゆきました。
でも、あなたは、もう、いらっしゃらなかった。

牧場を通して、彼方の丘へと
行く牧者たちよ、もしも運よく、
わたしがこよなく愛するお方にあうならば、
どうか、彼に行ってください。
わたしは病んでいます、苦しんでいます、死にます、と。



わたしの愛をさがしながら、わたしは行こう。
あの山々を越え、の岸边を通して。
花も積むまい、野獣も恐れまい。
強い敵も、国境を越えて行こう。

(被造物に問う)

ああ愛するあのかたの手で
植えられた森よ、あつい茂みよ！
おお花をちりばめた緑の草原よ、
いってください、もしやあのかたが
あなたがたの間を通れなかったかを。



(被造物の答)

無数の美をまき散らしながら
これらの林をいそいで過ぎゆかれたのです。
そして、通りすがりにごらんになったのです。
かれはみ顔を向けただけで、かれらに美をまかせ
あとに残してゆかれたのです。

* 霊魂と花むことの間にかわされる歌の 1~5 節

霊の賛歌 十字架の聖ヨハネ著 東京カルメル会訳

レオ 14 世教皇の言葉②

ペトロの役務の特徴は、自分を差し出す愛にこそあります。
大切なのは、イエスが愛したように愛することだけなのです。

ペトロの役務、それは、ガリラヤ湖畔での復活された主との対話の中で、主からペトロに託されたものではないでしょうか。

食事が終わると、イエスはシモン・ペトロに、「ヨハネの子、シモン、この人たち以上に私を愛しているか」と言われた。ペトロが、「はい、主よ、私があなたを愛していることは、あなたがご存じです」と言うと、イエスは、「私の子羊を飼いなさい」と言われた。二度目にイエスは言われた。「ヨハネの子、シモン、私を愛しているか」。ペトロが、「はい、主よ、私があなたを愛していることは、あなたがご存じです」と言うと、イエスは、「私の羊の世話をしなさい」と言われた。三度目にイエスは言われた。ヨハネの子、シモン、私を愛しているか」。ペトロは、イエスが三度目も「私を愛しているか」と言われたので、悲しくなった。そして言った。「主よ、あなたは何かもご存じです。私があなたを愛していることを、あなたはよく知っておられます」。イエスは言われた。「私の羊を飼いなさい」。

三度、イエスとの関係を否んだペトロは、三度、イエスを愛していると答えねばなりません。すると、三度、イエスは彼に羊飼いの役務を託すのです。イエスをほんとうに愛しているならば、イエスが子羊や羊を飼い、世話したように、彼も、子羊や羊を飼い、世話しなくてはならないということです。つまり、ペトロは、イエスが人々を愛したように人々を愛するようにと頼まれているのです。

私たちも、聖体拝領後の沈黙の中で、ペトロと同じ質問を、主からされているのではないのでしょうか。「○○さん、私を愛していますか」と。

(P. 九里)

P.S. 「レオ 14 世教皇の言葉」は、カルメル会の HP の「霊性センターニュース」にも掲載されています。「霊性センターニュース」とクリックしてください。

十字架の聖ヨハネのこぼれ話（209）

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

こぼれ話シリーズの導入(6)

つまらないことや陳腐なことを超え出ようと一生懸命になる人の気性は、周りの世界を疎外せず、新しい目でそれを見るようになるのです。彼によれば、すでに心の清い人は、あらゆることの中に、神からの喜ばしく、楽しく、純潔で、霊的で、快活で、優しい知らせを見出すのです（3 S26, 6）。

十字架のヨハネの時代では、「人間的な」や「人間性」といった言葉の意味は、「人間の自然性」や「人間の本性」といった哲学的・神学的意味の他に、次のような意味を含んでいました。「〈人間的な〉人とは、穏やかで、同情的で、とても優しく、柔和で、温和な人のことです。〈人間らしくなる〉とは、へりくだり、自分を知り、すべてのことに対し礼儀正しく、自分は王侯貴族であろうと、親切であることです。…〈人間性〉とは、親切や礼儀正しさのことです」（コバルビアス）

これらのページを通して、読者が十字架の聖ヨハネをより身近に感じ、一人の聖人の人間性と、また一人の人間の聖性とにより一体化したと感じるようになるならば、著者は、自分の努力が大いに報われたと感じることでしょう。

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス

アビラ、1990年10月2日

P. 九里訳

年間 第4主日 (A)

(マタイ5：1－12)

今日の福音朗読は「山上の説教」から取られています。有名な「真福八端」です。イエスは、世の基準では見過ごされがちな人々、貧しい人、蔑まれている人、心の清い人などこそが幸いな者であると教えられます。

イエスは、人々を完全さへと招かれたとき、何と言われたのでしょうか。人の聖性をどのように表しておられるのでしょうか。今日の福音の文脈において、聖性はまず、第一に「呼びかけ」ではなく、「約束」です。それは保証であり、何よりも、また誰よりも神に信頼を置く人々への保証なのです。

山上の説教は、聖性へ至る道をはっきりと示しています。当時イエスの話を聞いていた人々は、さまざまな立場の人々でした。彼らは皆、何よりもまず平和、幸福、そして充実への保証を必要としていました。イエスはその保証を、貧しい人、謙遜な人、心の清い人、迫害されている人々に与えられます。

「貧しくても、神のために迫害されていても心配することはない。神はあなたのそばにおられる。あなたを御国の相続人としてくださる。神が共におられるあなたは幸いである。」

これこそが、イエスが人々に告げられた福音（良い知らせ）なのです。

「幸いである……幸いである……幸いである……」。これは山上の説教の文の冒頭に繰り返される言葉です。幸福は、明らかにイエスの宣教の中心的テーマです。なぜでしょうか。それは、神の創造の計画が、人間の幸福にあるからです。実際、すべての人は終わりのない喜び、真の幸福を渴望しています。そして、この渇きを癒すことができるのは、永遠の至福である神だけなのです。

この世の人々は、幸福の源としてお金や財産、権力を最も重視します。しかし、イエスの考え方は革命的でした。それは、当時の社会に支配的であった価値観を根本から覆すものでした。イエスにとって重要だったのは、心のあり方であり、神へと向き直すことでした。山上の説教の中で、イエスは幸福と聖性のための「黄金律」を私たちに与えてくださいます。これらの規律は、私たちが回心し、幸福に満ちた人生へと献身する助けとなります。

真福八端を私たちの人生の指針とし、そうすれば神は私たちに「幸いな者」にしてくださいます。

(Sr. ポーリン)

年間 第5主日 (A)

(マタイ5：13－16)

「あなたがたは地の塩である。だが、塩に塩気がなくなれば、その塩は何によって塩味が付けられよう。もはや、何の役にも立たず、外に投げ捨てられ、人々に踏みつけられるだけである。

あなたがたは世の光である。山の上にある町は、隠れることができない。」(5・13, 14)

【み言葉を黙想する】

本日の福音は、山上の説教の中の「地の塩、世の光」です。至福八端を結論付ける言葉です。山上の説教の中で、最初に位置付けている至福八端は、神の国の“門”のようです。そのことをもう少し深めてみましょう。マタイ共同体は、紀元70年のエルサレム神殿崩壊後も存在していて、ユダヤ会堂の出入りも行っていたナザレ派のユダヤ人たちと異邦人が混在していた共同体であったであろうという説があります。ユダヤ教の派閥としても異邦人に開かれた共同体でもありました。しかし、ユダヤ教の最大派閥のファリサイ派の人々は、律法遵守が基本です。ここでマタイが心を傾けたのが、イエスの教えも律法を完成させるメシアであることを示すことでした。アブラハムから始まる信仰の系統の中でイエスの教えが完成されます。アブラハムに約束された神への信仰、これがマタイの律法主義を超えた「神の国とその義」でもあったのです。イエス・キリストはそれを持ってきた方であり、教えてくださる方でもありました。至福八端は、この「神の国とその義」を前においてその信仰に生きる“門”でもあったと思います。「神の国とその義」を前にして“心の貧しい人”、“悲しむ人”、“柔和な人”、“義に飢え渴く人”、“憐れむ人”、“心の清い人”、“主の平和をつくる人”、“神の義の実践者”です。信仰の実践者です。

「地の塩」とは、「塩」とは聖書で“塩の契約”といわれていますので、アブラハムから始まる“神との契約”への信仰に生きることのようにです(神との契約:キリスト信者は洗礼における恵みの契約)。マタイ福音書によるならば、聖霊と火による洗礼に生きること。

「世の光」とは、信仰の実践による「神の義と憐みの愛」を示すことです。イエス様自身が福音宣教を始めた時、それに伴い「いろいろな病氣や苦しみに悩む者」(4・24)を癒されたという。教えには、神の憐れみの御業が伴っています。

マタイ福音書は、教えと行いをインテグレーションした福音書です。言葉によって神の国の福音を教え、病人を癒すことによって行いを示し、福音宣教をしています。すなわち、①イエス・キリストの教えを信じて(信仰によって)義とされ、②キリストの愛の奉仕によって(神の愛の輝きによって)聖化されます。両方とも聖霊の火による浄化と恩恵によって、神への信仰の契約の塩つけされた、(神の愛とつくしみの)輝きわたります(聖性の道)。これが聖性への道です。

アビラの聖テレジアが『完徳の道』の最後に示した「愛と恐れ」の道と共通しています。神の偉大さに畏れ敬う(信仰生活)と、兄弟愛の実践において『完徳』に向かうことを教えています。「神の前で生きる信仰生活は、神への信仰の畏怖を持ち、父なる神の子となるために隣人愛の実践を行うこと。これが聖性への道であるということです。

2月11日は、世界病者の日となっていますが、多くの病人たちが苦しみを抱えています。この方たちのためにも祈りを捧げましょう。

(松田浩一神父 OCD)

年間 第6主日 (A)

(マタイ 5 : 17 - 37)

今日の福音は、先週からの続きです。山上の説教は、新たな時代の基本的内容を示す、神の国の憲法と見なされています。これはイエスの就任演説ならぬ説教です。新約の時代を生きる私たちは、十戒を守るのみならず、敵を持たず、心身ともに清く保ち、生活様式や言葉遣いにおいて単純かつ簡素であるべきです。

いのちを選ぶとは、憎しみではなく愛を、うらみではなく赦しを、無礼な言葉ではなく親切な言葉を、利己的な行いではなく助けることを選ぶという、単純な選択に他なりません。

福音は、私たち一人ひとりが変化すべき点について語っています。私たちは、神が愛してくださるのと同じように互いを愛するように招かれています。その方法を教えてくださるのはイエス様ですが、どう行動するかを選ぶのは私たち次第です。神の似姿へと成長するためには努力が必要です。強い意思でそれを望み、選び、実践しなければなりません。

今日、私たちが自問するのは、「いかにして神の国において偉大となるか、そして神の偉大な掟『神を愛し、隣人を愛する』をどう理解するか？」です。神の国で偉大になるためには、ただ定期的に（特に日曜日）教会に通えばいいと多くの人は信じています。しかしそれ以上のものが求められます。神の国で偉大になるには、私たちが神と結ぶ契約関係を理解し、また、私たちが神によって任命された共同創造者であることを理解しなければなりません。そしてそれに伴い、お互いを含む神のすべての被造物を大切にする責任が生じます。これこそ神と隣人を愛することなのです。

イエス様にとって、愛は最高の律法であり、他のすべての法はこれに従属します。救いは、単なるうわべの法令遵守によってではなく、愛を人間関係の基本原則として据えることによって保証されます。私たちの回心や態度の変容、そして内なる動機の浄化を祈り求めましょう。

(Sr. Paulina)

四旬節 第1主日

(マタイ4：1－11)

今日はイエスがヨルダン川で洗礼者ヨハネから洗礼を受けられ、神の霊が鳩のようにイエス上に降り、「これはわたしの愛する子、わたしの心に適う者」と言う声が聞こえ、イエスはどのようなお方なのかが神から明かされた出来事の次の箇所になります。

イエスは荒れ野に行かれました。荒れ野とは、荒涼とした場、生きるにも大変な場、水を得るにも食料を得るにも大変な場です。その様な場所にイエスは、40日間留まり、昼も夜も断食されました。そして空腹を覚えられた時、誘惑を受けられました。

誘惑者は、初めに「神の子なら、これらの石がパンになるように命じたらどうだ。」と話してイエスを誘惑しますが、イエスは神のみことば、聖句を引用して答えられます。また誘惑者は、イエスを神殿の屋根の端に連れて行って「神の子なら、飛び降りたらどうだ。『神があなたのために天使たちに命じると、あなたの足が石に打ち当たることのないように、天使たちは手であなたを支える』と書いてある。」と試みようとしています。

これにもひるむことなくイエスは、『『あなたの神である主を試してはならない』とも書いてある』と答えられ、更なる誘惑にも「退け、サタン。『あなたの神である主を拝み、ただ主に仕えよ』と書いてある。」と毅然と答えられて悪魔は離れ去り、天使たちが来て仕えたと言われています。

イエスは、どの誘惑に対しても旧約聖書の言葉を提示して、誘惑を退けられました。神の言葉こそが、私たちの進むべき道を守ってくれる道しるべ、道標になるのですね。イエスが歩まれた道は、平坦な道ではありませんでした。

イエスの道は十字架への受難の道であり、ペトロが避けるようにと言ったこともある道でした。その時イエスはペトロに向かい「サタン、引き下がれ。」(マタイ16.23)と言われました。神が示しておられる道を妨げる者になっていたからなのでしょう。

私たちが歩んでいる道、それは平坦な道でないことも多いでしょうし、苦難や困難に直面することも多いでしょう。その時どのように歩むべきかを語ってくれているように思います。神が自分に望んでおられるのは何か、祈りのうちに探して願い求め、示しておられる道を見出し、それを自分のものとして受け止めて、イエスの様に歩んでゆくことができればどんなに良いことでしょうか。神の導き、恵みと祝福がいつも私たちの上に豊かにありますように。

(Fr. 古川利雅)

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com> の記事を紹介します。

<< Communications (時事通信) >>

2026年1月4日

レバノン発：

教皇レオ 14 世 女子跣足カルメル修道会の修道院をご訪問



教皇レオ14世教皇は、11月30日（日）に杉の国、レバノンに到着され、その夜受入当局との面会を終えた後、ハリッサの“神と一致の聖母”修道院を訪問されました。そこで教皇は跣足カルメル修道会の霊性を象徴する贈り物をお受けになりました。

教皇レオ14世は、聖ヨハネ・パウロ2世教皇、ベネディクト16世教皇に次いで、ハリッサの女子跣足カルメル修道会の修道院を訪問された3人目の教皇です。約30分間のご訪問で、教皇は修道女たちと挨拶を交わされ、修道女たちから贈呈された“プラハの幼きイエス”の小さなご像を受け取られました。この“プラハの幼きイエス”のご像は女子跣足カルメル修道会の霊性を象徴する代表的な贈り物で、何世紀にもわたり幼子キリストへの愛を特別な形で広めてきたものです。

本文・画像：ヴァチカーノ

（訳：小宮山延子）



いのちの言葉 2月

見よ、わたしは万物を新しくする¹

(ヨハネの黙示録 21 章 5 節)

1

このいのちの言葉が書かれている「ヨハネの黙示録」は、新約聖書に数々収められた書物を締めくくる最後の書です。黙示録という書名は「啓示」という意味で、著者の意図は、世の終わりに何が起こるかを示すことにあります。つまり、イエスの地上への再来、悪の決定的な敗北、新しい天と新しい地の出現です。

この書を理解するのは容易ではありません。書かれた時期は紀元 81～96 年です。激しい迫害のなか、キリスト者の共同体には不安と恐怖が広がっていました。我々は、そして委ねられている福音の知らせはどうなってしまうのだろうか？なぜ神は介入してくださらないのか？

こうした中、黙示録の著者ヨハネはローマ人たちから追放され、パトモス島に流されます。その島で彼はいくつもの幻を見、それらを書き記すよう命じられるのです。

見よ、わたしは万物を新しくする。

迫害に怯えるキリスト者共同体に、黙示録は希望を与えようとしています。たとえ今、暴力に満ちた困難な状況にあり、確かな将来が見えなくとも、最終的には必ず神が勝利し、神は万物を新たにしてくださるのだ、と。

現代にあっても、「テレビや新聞の一面にあるニュースを見れば、たくさんの悲劇が報じられています。私たちは、悲惨なニュースにさえ慣れてしまうリスクを抱えています。……しかし、私たちと共に泣き、ご自分の子らを思って無数の涙を流してくださる御父がおられます。私たちを慰めるために、待っておられる父です。私たちの苦しみをすべてご存知で、もっと違う未来を、私たちのために準備してくださる父です。

これこそが、キリスト教的希望が与えてくれる大きな展望であり、私たちの人生の日々に行きわたり、助け起こしてくれる希望なのです。」²

見よ、わたしは万物を新しくする。

いつどのように、この神の働きが起こるのかは誰にも分からないし、推測するのも詮無いことです。しかし、それが起こるのは確かです。

「聖書の最後には、私たち信者の旅の最後の地平、すなわち天のエルサレムのことが記されています。それはまず、広大な神の幕屋として描かれます。神はすべての人を迎え入れ、人々とともに確かにそこにおられます。(黙 21・3 参照) これこそが私たちの希望です。私たちが最終的に神とともにそこに住まうとき、神はどうされるでしょうか。神は、長い間試練を受けて苦しんできた我が子を迎える父親のように、私

たちにどこまでも優しくしてくださいます。『見よ、神の幕屋が人の間にあって、神が人とともに住み、人は神の民となる。……（神は）彼らの目の涙をことごとくぬぐい取ってくださる。もはや死はなく、もはや悲しみも嘆きも労苦もない。最初のものは過ぎ去ったからである。……見よ、わたしは万物を新しくする』（黙 21・3-5）私たちの神は新しさの神です。』³

見よ、わたしは万物を新しくする。

このいのちの言葉を、今月はどのように生きたらよいでしょうか。

「このみ言葉は、私たちがすでに今から準備し、築く新しい世界に向かって歩んでいるのだと、確信を与えてくれています。その意味で、現世をあきらめたり、逃避したりするいざないでは全くありません。神は万物を新しくされたいのです。私たちの人生、交友関係、夫婦や家族の愛。社会、仕事、学校、文化、娯楽、医療、経済、政治…人間の営みのあらゆる分野を。ただ、そのために神は私たちを必要とされています。自らの内にみ言葉が生きるようにする人々、生きたみ言葉となって、置かれた場所でもう一人のイエスとなって生きる人たちが必要なのです。」⁴

クリスチャンの若者、アリスは、自分の召し出しを生きるには根底から自分が変わる必要があると分かりました。自分の人生において、神が完全に働かれ、新たな人生にさせていただくためです。アリスは「すごいプレゼント」として、インドで体験生活をするチャンスを得ました。そこでは真の喜びを体験し、どんなに難しいことが起きても、神の恵みの中にいることを感じました。祈りと共同生活、ボランティア活動に勤しむ中、奉仕活動をした孤児院の子どもたちにとっても心を打たれました。孤児の子たちは、何も持たない貧しさに生きているのに、何事にも積極的で活気にあふれていました。アリスは子どもたちから、人生についてたくさんのことを教えられました。彼女にとってこの体験は単なる旅行ではなく、巡礼そのものでした。「上り坂も下り坂も」ある道のりで、「自らのリュックを空にする」必要があり、代わりに豊かにされ、自由になる体験を得たのです。

アウグスト・パローディ・レイエスと「いのちの言葉」編纂チーム

*いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

連絡先: フォコラーレ 東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail: tokyofocfem@gmail.com

ホームページ: <https://www.focolare.org/japan/>



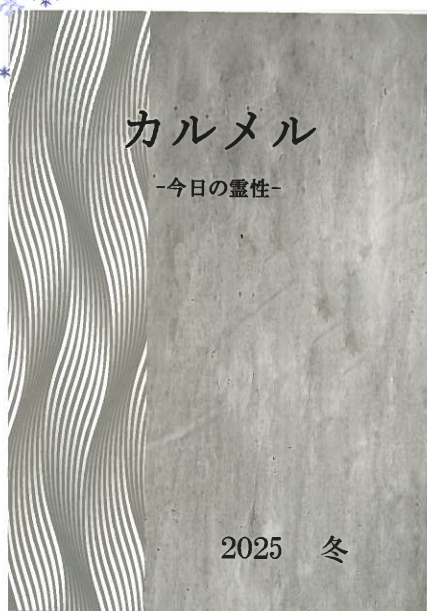
¹ 日本聖書協会「新共同訳」

² 教皇フランシスコ、2017年8月23日一般謁見演説「キリスト教的希望についてのカテキーシス」

³ 同上

⁴ キアラ・ルービック「いのちの言葉」P429 ファビオ・チャルディ編、チッタ・ノーバ、ローマ、2017年

カルメル誌 新刊案内



2025年 冬号 No.399

《希望は欺かない—2025年通堂聖年の中で—(4)》

神の愛に希望を置く

—十字架の聖ヨハネの教え(2) 九里彰

テレーズと希望—あきらめない!—という選択

片山はるひ

カルメルの外のカルメル

—教会の外から見られたアビラの聖テレジアと

十字架の聖ヨハネ(12) 鶴岡賀雄

この道はいつか来た道—人生の秋に幼子イエスを

拝みにベツレヘムへの道 伊従信子

教カトリック信仰のシンプルさ

—第一回「お告げの祈り」の豊かさ 田畑邦治

風に吹かれて再び(14)—琵琶湖愛惜 原 造

靈的研究会講義録(30)—聖書・祈り・愛について

奥村一郎



2025年 四旬節特集号

「聖年に祈る」

「希望の巡礼者となるために」

絶望の体験から

—二人のテレジアの靈的起点 中川 博道

イエスのみこころと全人類

—巡礼、シノドス、ニカヤ公会議、新回勅の連続性

サレジオ会 阿部 仲麻呂

レビ記、神の励ましの声を聞く

志村 武

信仰生活の再構築

和田 誠

ご案内

1冊 580円 A5サイズ 50～70ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会信徒ホール本コーナー・各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

●送付ご希望の方は、1冊 580円(+送料 140円)を下記へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費(年5冊:春夏秋冬+特別号 計3,600円)を下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会

●お問い合わせは、事務担当:内田幸子宛に上野毛修道院へ手紙かファックス、又はe-mailで。

〒159-0093 世田谷区上野毛 2-14-25 Fax: 03-3704-1764

E-mail: carmelshi.jimu@gmail.com



『十字架の聖ヨハネの霊性』

フェデリコ・ルイス師の講話
〈十字架の聖ヨハネ・霊性神学研究の第一人者〉

著者：フェデリコ・ルイス

訳者：九里 彰

判型：B6 判並製

ページ数：184 ページ

価格：本体 1,600 円+税

ISBN：978-4-8056-3918-4 C0016

発行：サンパウロ

スペインで「詩人の守護聖人」と称される十字架の聖ヨハネは、日常生活の中で神との親密な関係を生き、キリストと、隣人との愛の交わりを生きた聖人でした。自身の神体験を詩で表し、自らそれを解説し、著作として残しています。彼は決して近寄り難い人物だったわけではなく、バランスの取れた温厚な人でした。

インターネットや AI が発達する、「霊性の時代」といわれる現代において、神との出会いを生きる真の意味を、十字架の聖ヨハネの思想、生涯の中に探ることができます。

十字架聖ヨハネを正しく理解することは、霊性を正しく理解することの基礎となっていくます。

フェデリコ・ルイス・サルバドル

1933 年スペイン、バレンシア生まれ。1950 年跣足カルメル修道会入会。

1957 年司祭叙階。ローマ・カルメル会国際神学大学テレジアヌム教授。

2018 年 10 月 27 日マドリードにて帰天。享年 85 歳

九里 彰

カイルメル修道会司祭。1981 年上智大学大学院哲学専攻、博士後期課程修了。1990 年カルメル会入会。1997 年司祭叙階。1999~2002 年スペイン留学。カルメル修道会 元日本地区総長代理。現在、金沢広坂修道院院長

書籍案内



生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

———目次———

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
- 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
- 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
- 4 脱原発の倫理／久保文彦
- 5 何のために働くのか／神谷秀樹
- 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
- 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
- 8 関係の倫理学／清水正之
- 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
- 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
- 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
- 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禅
- 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

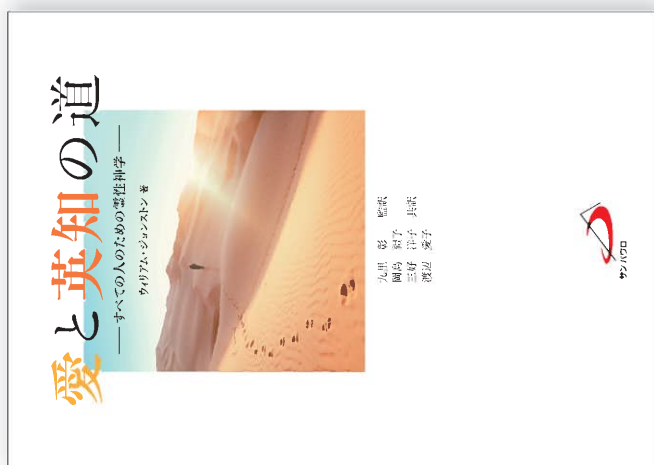
ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ

愛と英知の道

——すべての人のための霊性神学——

ウィリアム・ジョンストン 著

九里 彰 監訳
岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳



西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生活の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私どもと心を一つにしておられる方々にも、本書を勧めています。

- 第一部 キリスト教の伝統
 - 第1章 智恵（1）
 - 第2章 智恵（2）
 - 第3章 理性対神秘主義
 - 第4章 神秘主義と愛
 - 第5章 東方のキリスト教
 - 第6章 愛を通して生まれる英知
- 第二部 対話
 - 第7章 科学と神秘神学
 - 第8章 修徳主義とアジア
 - 第9章 神秘主義と根源的なキリスト
 - 第10章 英知と（空）
- 第三部 現代の神秘的な旅
 - 第11章 信仰の旅
 - 第12章 浄化の道
 - 第13章 暗夜
 - 第14章 愛のうちに（る）
 - 第15章 花嫁と花婿
 - 第16章 一致
 - 第17章 英知
 - 第18章 活動
 - 第19章 社会活動の神秘主義



ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)

北アイルランドのベルファストに生まれる。

イエズス会に入会し、26歳で来日。

32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教学を上智大学などで講じられた。東洋の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。ペドロ・アルベ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、速藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。

新刊紹介

聖マリアとともにイエスのいのちを生きられた ニコラオ・プレシエル神父の講話 II ロザリオの祈り



Chrysostomus
小野崎良子 編

中川博道師
(カルメル会)
《推薦》

教友社定価 (1,500円＋税)

聖母マリアは、「イエスを愛し、信じて生きるキリスト者の典型・模範」です(教会憲章 53 番)。ニコラオ師はロザリオを通して、日々私たちが、イエスの神祕をマリアとともに生きる道をわかりやすく説明してくださいました。

ロザリオの祈り

聖マリアとともにイエスのいのちを生きられた
ニコラオ・プレシエル神父の講話 II

【出版社】 教友社

【著 者】 小野崎良子：編

価格 1,650 円 (税込)

品番/ISBN: 9784907991807

発売/発行年月: 2022 年 3 月

判型: A5

ページ数: 184

「ニコラオ神父様が、ロザリオの祈りを捧げながら歩いているときに、突然十五の玄義の流れが鮮明に示され、ご自分の中でまとまったその内容をわたしたちに語られました」(「はじめに」より)。ニコラオ師亡き後、師の薫陶を受けた信徒たちによって記録された講話が 1 冊の本に。中川博道師(カルメル会)推薦。

小野崎 良子(おのざき・りょうこ)

1950 年夕張市大夕張の炭鉱の町に生まれる。小学 4 年生の時、「クリスマスにはプレゼントがもらえる」という級友の誘いに乗り、高校卒業まで熱心にカトリック教会に通う。その後地元を離れ旭川の学校に進学。青春を謳歌する日々の中、ふと感じた「空虚さ」を確かめるために再度教会(大町教会)を訪ねる。そこでニコラオ神父様に出会い受洗にいたる。

39 年間の教職生活を終えた後、ラジオで流れたキャロル・サック宣教師の歌とハーブに触発され、日本福音ルーテル社団主催「リラ・プレカリア(祈りのたて琴)研修講座」にて 2 年間の養成を受ける。現在は求めに応じて、病床にある方、高齢者などを訪問し歌とハーブによる祈りをお届けしている。

ニコラオ・プレシエル神父

1921 年、(旧)チェコスロバキアに生まれる。1940 年、ドイツ軍無線通信兵として従軍。

1946 年、フランシスコ会に入会(ドイツ・フルダ管区)し、1952 年、司祭に叙階される。

1953 年、来日。1956 年、カトリック名寄教会着任。以後、美唄教会、大町(旭川)教会、枝幸教会、稚内・枝幸教会、富良野教会にて司牧。

2001 年以後、フランシスコ会札幌修道院、月形町藤の園にて療養する。

2007 年 1 月 6 日、月形町藤の園にて帰天(85 歳)。



福者マリー＝ユジェーヌ神父に導かれて 十字架の聖ヨハネの ひかりの道をゆく

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195

定価540円(税込)

【聖母文庫】 287

第2版
好評発売中!

マリー＝ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネ
を生き、体験し、確認した教えなのです。
ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの
教えは現代の人々にも十分適応されます。
また、神の命を伝え、実践的手段を示して
聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の
配慮が伝わってきます。([はじめに]より)



神と親しく生きる いのりの道

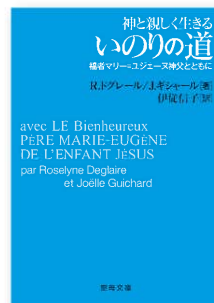
福者マリー＝ユジェーヌ神父とともに

R. ドブレール / J. ギシャル 著

伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 【聖母文庫】 246

定価540円(税込) 209頁



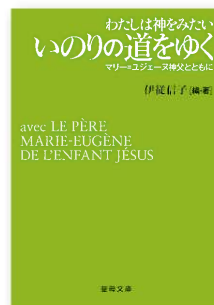
わたしは神をみたい いのりの道をゆく

マリー＝ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

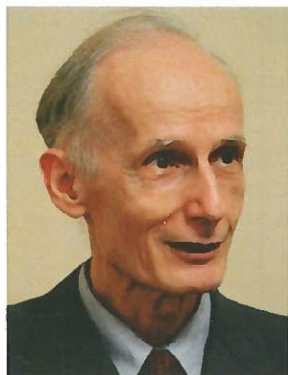
ISBN978-4-88216-339-8 C0195 【聖母文庫】 268

定価648円(税込) 281頁



ご注文・お問い合わせ先

聖母の騎士社 ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340



クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と霊性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、霊的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

ISBN		
	第1巻	定価(本体+税)
I 超越体験 一宗教論	宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教の精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	9784862852151 3,800 円+税
II 真理と神秘 一聖書の黙想	日常生活を貫いて人間とかかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
III 信仰と幸い 一キリスト教の本質	主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」をとおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と霊性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論	古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに広げて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践	信仰との関わりの薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

●リーゼンフーバー、クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イエズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(～2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知 泉 書 館

〒113-0033 東京都文京区本郷1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

<http://www.chisen.co.jp>

カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）



東京 上野毛 霊性センター

黙想企画 **上野毛 聖テレジア修道院(黙想)**
(2025年5月～)

- ・聖書深読黙想会(土曜日18時～日曜日16時) カルメル会士

2025年

5月24日(土)～25日(日)

7月5日(土)～6日(日)

9月6日(土)～7日(日)

11月29日(土)～30日(日)

2026年

1月17日(土)～18日(日)

3月7日(土)～8日(日)

- ・奉獻生活者のための黙想会(初日18時～最終日朝食) カルメル会士

2025年 8月16日(土)～25日(月)

2025年 12月26日(金)～2026年 1月4日(日)

★教会の祈り(時課の祈り)を軸とした 黙想の場を提供いたします。

【ご利用に際して】

- ・介助やサポートなしで生活できる方。
- ・上記に抵触する方はお問合せ下さい。
- ・個人の場合はご家族・ご親族に、奉獻生活者の場合は長上にお申込者の状況をお伺いした上で、利用をご遠慮願う場合もありますのでご了承下さい。
- ・部屋は2・3階でエレベーターはありません。階段をサポートなしに
1人で昇り降りできない方はご利用いただけません。



- * 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- * こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です（グループ、個人いずれも）。お気軽にお問い合わせください。
- * 間違いを避けるため、お問い合わせは FAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂けますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール : mokusou_kmng@carmel-monastery.jp

ホームページ : <http://www.carmel-monastery.jp>



宇治カルメル会 黙想会案内 (2026 年 2 月～3 月)

【一般のための黙想】 1泊2日（土曜 午後5時～日曜午後4時） 中川博道神父
5:30 サルヴェ・レジーナ（修道院）から開始

2026 年 1/31—2/1 3/7—8

【聖書深読】（土曜午前10時～午後4時） 中川博道神父

2026 年 変更 ~~1/17~~→2/7 3/14

【水曜黙想会】（午前10時～午後4時） 中川博道神父

2026 年 3/11

【祈りの学校】 総合編（木） 午前10時から 松田浩一神父

2026 年 2/5 3/5

【カトリック信仰生活の学び舎】

《カテキズムに基づく》（火） 午前10時から 松田浩一神父

2026 年 2/24 3/10

【奉献生活者の黙想】（午後5時～午前9時） 一般参加可

2026 年

3月18日（水）夕食～27日（金）朝食 中川博道神父

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会も歓迎いたします—

☆お申し込みはEメール、FAX、はがきで

お名前と連絡先をご記入の上、お申込み下さい。

お電話は午前10時～午後4時の間にお願い致します。

受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、
お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様にお願い致します。

聖書は各部屋に備えております。
またタオル類も準備してありますが、各自持参してもかまいません。
浴室にボディソープ・シャンプー等はございますが
浴衣やブラシ・歯ブラシ等はありませんので、各自でお持ちください。



〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)

Tel 0774-32-7016 Fax 0774-32-7457

E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

〈カルメル修道会日比野修道院、講座、黙想企画〉

【静修の集い】

2026 年 4 月 11 日（土）10：00～15：00

講話担当司祭：松田浩一神父（カルメル修道会）

テーマ：十字架の聖ヨハネにおける“美の道”についての一考察

スケジュール：講話①、ご聖体顯示、昼食、
講話②、ミサ、茶話会

参加費 無料（自由献金をお願い致します）。
どなたでもご自由にご参加ください。

持ち物 昼食（各自持参）

問合せ 日比野修道院（052-671-1003）

場所：跣足カルメル修道会日比野修道院（カトリック日比野教会）

諸所の企画案内



真命山 霊性交流センター
サダナ瞑想
慈しみ深き会

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。

記載には注意を期しておりますが、

詳細は各問い合わせにご照会下さい。

よろしくお願い致します。

テーマ「祈りの人々と出会う」
「主はご自分の親しい人々にみ旨を示される」
(詩編25章14節)

毎月第2木曜日(10:00～15:00)
予約は前日の16:00まで

- 1月 8日 アブラハム：執り成す人 「アブラハムは主の前にとどまった…」
2月12日 モーセ：呼びかけに応える人 「ここにおります…」
3月12日 ダビデ：悔い改める人 「神よ、わたしの罪をぬぐってください…」
4月 9日 エリヤ：沈黙の中で神に出会う人 「静かなささやきの声があった…」
5月14日 ハンナ：感謝に満ちた母 「わたしの心は主によって喜び踊る…」
6月11日 エレミヤ：神と格闘する預言者 「主よ、あなたに惑わされました…」
7月 9日 エステル：民のために立つ人 「わたしのために祈ってください…」
8月 休み
9月10日 ヨブ：神の神秘において神を認める 「あなたのことを耳にしていましたが…」
10月 8日 聖フランシスコ：すべての造られたものと 祈る人。
「いと高き、全能の、善い主よ…」
11月12日 ザカリアとエリサベト：神の訪れ気づく人々 「主はほめたたえられよ…」
12月10日 マリア：心に言葉をたたえる人 「わたしの魂は主をあがめ…」

・ 個人またはグループでの黙想会
研修会も歓迎いたします(要予約)

申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦

1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

www.shinmeizan.com

Tel:0968-85-3100

Fax:0968-85-3186



サダナ瞑想 †東洋の瞑想とキリスト者の祈り†

プログラムの詳細、開催状況、補充情報などはホームページをご覧ください。

<http://sadhana.jp/>

申込み受付・・開始日の 8 日前まで

コース	日 時	指導	開催場所	申込み
サダナⅡ	2/19(木)17:30～ 23(月・祝)16:00	同上	都内施設	来間(くるま) 裕美子※ TEL: 090-5325-2518 *ショートメールは避けてください sadhana79878@gmail.com
サダナⅠ	3/19(木)17:30～ 22(日)16:00	同上	神瞑窟 東京都西多摩郡 檜原村	同上

※ショートメールは避けてください。申し込まれると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場合は 090-5325-2518 (来間) までお問い合わせください。

※不在の場合は、渡辺由子/Tel & Fax : 042-325-7554



祈りの集い

～沈黙の内に神を求めて～

「祈りの集い」の前半では、「祈りについての講話」をいたします。現在は、ウィリアム・ジョンストン神父の著作『愛と英知の道 ――すべての人のための霊性神学』(2017 年、サンパウロ社)を少しずつ読みながら、祈りについての理解を深めて行きたいと思います。

後半では、すべての存在、私たち一人ひとりを支えておられる、憐れみ深い神の前に自分を置き、沈黙の内に祈っていきます。



場所: イグナチオ教会岐部ホール 404 号室

(JR・地下鉄丸ノ内線・南北線四ツ谷駅徒歩 1 分)

次回の予定: 3 月 26 日(木) 13:30～15:30

2026 年度スケジュール

1 月 22 日、3 月 26 日、5 月 28 日、7 月 23 日、9 月 24 日、11 月 26 日

主催: 慈しみ深き会

指導: 九里^{くのり} 彰神父(カルメル修道会)

* 参加費無料(献金歓迎)

* 問い合わせ先: 042-473-6287 篠原(11:00～20:00)



朝日カルチャーセンターの 通信深読「聖書に親しむ」へのご案内

「通信深読」は、「聖書深読黙想会」にさまざまな理由で参加できない方々のために考案されました。参加を希望される方は、下記の朝日カルチャーセンター通信講座課へお申し込みください。手続きがすめば、次のような手順でこの「通信深読」が行われてゆきます。

ファースト・ステップ

「個人素読」：毎月、朝日カルチャーセンターから指定された聖書深読箇所を、ひとりで繰り返し読み、み言葉を自由に黙想します。

セカンド・ステップ

「個人素読」の報告書作成：送られてきた用紙（B5用紙）に、深読箇所特に印象に残った節を二三ヶ所選び、番号と○や△や×などの記号を記し、「全」には、全体の印象を表す、ご自分の体験と結びついた具体的な名詞を、「照」にはみ言葉を実践する決意を示す動詞を書き込みます。さらに「所感」や「近況報告・質問」の欄に、ご自由にご自分の考えや質問等を記入します。

サード・ステップ

（参加者から朝日カルチャーセンターへ送られた「個人素読」の報告書は、参加者全員のものがまとめられ、講師へ送られます。）

講師が各参加者の「個人素読」の報告書に対しコメントし、深読箇所の「解説」（A4 2枚）と共に、朝日カルチャーセンターへ送り返します。

フォース・ステップ

コメントされた全員の「個人素読」の報告書（「近況報告・質問」はプライベートなこともあるので、削除されます）と「総合素読表」、そして講師の「解説」が冊子となり、各参加者に、センターから送られます。

* 費用：6ヶ月（20,360円）。納入は4月、7月、10月、1月。継続の場合19,130円。

* 講師：九里彰師（奇数月）、今泉健師（偶数月）

* 問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座課

Tel: 03-3344-2527（直通）

『靈性センターニュース』

* 郵送終了のお知らせ *

『カルメル靈性センターニュース』はWeb掲載移行に伴い、
冊子の発行を終了しております。

これまで月刊誌として郵送を行って参りましたが、今後は
Webにてご覧下さいます様、お願い致します。

宇治カルメル会修道院ホームページ

<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

「カルメル靈性センターニュース」(PDF)をクリック
過去のバックナンバーも揃って掲載しております。
どうぞご活用下さい。

また引き続きご献金もお願いしております。

郵便番号口座： 00910-6-333184
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457
reisei@carmel-monastery.jp

男子跣足カルメル修道会のホームページ

<http://www.carmel-monastery.jp>

Google:「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

靈性センターニュース掲載の情報も載っています

あとがき

灰の水曜日から始まる復活への道

今月18日「灰の水曜日」から、“真の人”への脱出の道をたどる四旬節が始まります。その出発において教会は私たちに呼びかけます。

「あなたはちりであり、ちりに帰って行くのです」。

青年時代に聴いた呼びかけが思い出されます。

「人生とは火葬場への待合室です。火葬場の煙突をくぐっていく時、全ての“もの”を置いて、心ひとつで神様のもとに行くことになります。その時、神様は、私たちに何を持っていたか、何をしたかを聞かれないでしょう。ただ『あなたは誰ですか？』と聞かれるに違いありません。」

教会はさらに、「回心して福音を信じなさい」とも呼びかけます。“回心（メタノイア）とは、具体的な判断や処置における事後の考えの変更、思いなおし”と、辞書は伝えています。思い込みを脱して、「福音の真理」に立ち帰る。

教皇フランシスコが呼びかけておられました。

「福音は人のもっとも奥深くからの必要にこたえるもの」、「福音（イエス）の本質を適切に美しく表現することができれば、間違いなく、そのメッセージは、心の奥深くからの問いに対するこたえとなります」（使徒的勧告『福音の喜び』265）。

今年の四十日の歩みが、イエスとの真実な友情の深まりとなっていきますように。

(mahn)

